

第 2 回検討部会（8月2日）での主な意見

1 情報の信頼性の確保

- ・ 一時的に、科学的データを変換（翻訳）し、意義を付加して出す際、バイアスがかかると思う。元のデータを出していくことが必要ではないか？
- ・ 情報の収集・整理にあたっては、民間企業の研究施設であっても、多くの有用なデータを蓄積しているところもあるので活用すべきだと思う。
- ・ 民間が出すデータにはどうしてもバイアスがかかるが、データの信憑性を補填するには、方向性が固まった段階で、その出所を明示することで可能。また、論争になっているものは、そのことを正直に伝える。論争が 5 : 95 なのか 1 : 1 なのかの差はあるが、マスコミの出す情報は、バイアスがかかっていると考えた方がよい。
- ・ 元データを出すことは、膨大な量になるが、出所だけでも明示した方がよい。
- ・ 元データを出すと、結局は専門家の議論になり、消費者は理解できない。出所を明示しても、素人が専門的データに直面した時、どのような判断をするか不明。ネットに掲載しても重くなるだけだし、間違えてそのページにログインしたら、数字の羅列で何だかわからない。専門家向けにデータの入口だけを示し、素人にはわかりやすい話だけを出すなど、多様な形で情報発信するしかない。
- ・ 信憑性の話で、5 : 95 の議論になっているものでも、稀に 5 が正しかったり、将来的に 1 : 1 になったりする。どの時点での信憑性を持って判断するか、非常に難しい。
- ・ 既に発表された情報に対する検証・検討を行うことが必要。例えば、子供ガイドライン食事編について、不適切な表現があったと感じる。科学的データは常に変化していくものであり、早急に見直すことが必要。



情報の収集は、可能な限り幅広く行い、その整理にあたっては、学術的な信頼性を検証していく。

情報は、正確かつ分かりやすい内容で発信し、必要に応じて、概要版、詳細版など多様な形での発信を行っていく。

科学的に不確実な事項についても、正しく、分かりやすく伝える努力をしていく。また、新たな知見が得られた場合には、速やかに最新の知見に基づき情報を分析し、その結果を発信していく。

2 リスコミと緊急情報の関係について

- ・ 緊急時の情報の出し方は、タイミングが重要。
- ・ マスメディアの間では、「情報発信には、FTS が重要(F; Fact T; Timing S; Software)」。
この中でも T が一番重要である。
- ・ クライシスはタイミングが重要だが、同じ情報が 2 つのチャンネルから発信されなければいけない。複数のチャンネルから情報が提供された方が信頼性も高まり、行動へとつながる。
- ・ クライシスとリスクは、扱いを変える必要がある。クライシス時の情報に対する信頼性を補填するのは、常日頃のリスコミであり、両者は車輪の両軸のようなもの。しかし、クライシスには当該事項に対する曖昧さが無いというのが違いである。
- ・ 危機管理においては、コミュニケーションをとっている余裕はない。したがって、危機管理の中身について日常からリスコミを行っていくことが必要。
- ・ マスメディアは本当に必要な情報を流すとは限らないので、都として通常のリスコミのルートをどのように確保するかが重要である。
- ・ 行政が輸入食品の回収命令を出した際に、「何袋まで食べても大丈夫」という記述があった。これは、この記述によって素人が冷静に受け止められたと考えるか、大きな事件を小さく見せたと考えるべきか。また、ADI など記述の根拠を明示した方がよいのではないか。



緊急情報を健康被害の未然防止・拡大防止に役立てるためには、日頃からのリスコミによって、相互の信頼関係が築かれていることが重要。こうした視点にたって、双方向の意見・情報の交流を進めていく。

危機管理にあたって、都の具体的な対応方法について、日頃からリスコミを行っていく。また、危機管理に際しての情報発信に係る内容、時期、方法等についての的確に判断できる人材の育成を図っていく。

3 人材育成

- ・ 情報の受け手側に立って、受け手として必要な情報をピックアップする人材が必要である。
- ・ 人材育成ができないと言うが、出来ないのではなく活用できていないだけ。記者 OB などで真剣に考えている人もいる。そのような人材と公募委員とが一緒に検討できるような場や、外部アドバイザーのような仕組みを作ってもよいのでは。
- ・ 都の職員だけでなく、一般の方へ情報発信や教育していくリーダーを都が育成してもいいのでは。
- ・ 人材育成は、2段階で進めるべき。企画調整できる専門知識を持った行政内部の人材育成とともに、モニターが本当の都民と話ができるような場をつくっていくことが必要。
- ・ 情報を隠さずに早く出すことは良いが、後のフォローなしは問題。リスクに日常的に対応する力について、まずは情報発信する都職員が培っていくことが大事。



リスコミの重要性やプレゼンテーション方法に関する研修
プレス発表用の原稿作成やプレゼンテーションの実習
都民や事業者の団体、専門機関との日頃からの連絡・連携の対応

4 その他

- ・ 国と都の住み分けを考える必要がある。所沢のハウレンソウ事件のような例を挙げ、次回同じような事件が発生した際に、都はどのように対応すればよいかということを検討していけばよいのでは。



どのようなリスクが顕在化するのか、日頃から点検し、迅速にQ & Aなどを提供できるよう準備しておく。

- ・ 都では複数の局や部署でリスコミに取り組んでいる。リスコミに関する情報を一元的にまとめることが必要なのではないか。



食品の安全に関する相談窓口などをHP等で一元的に紹介し、都民が必要とする情報の入手や相談が容易に行えるようにしていく。